

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3373800386		
法人名	社会福祉法人 千寿福祉会		
事業所名	認知症対応型共同生活介護事業所 グループホーム百		
所在地	岡山県久米郡美咲町書副180-4		
自己評価作成日	平成26年2月10日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_2012_022_kani=true&JigyosyoCd=3373800386-00&PrefCd=33&VersionCd
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ライフサポート
所在地	岡山市北区南方2丁目13-1 県総合福祉・ボランティア・NPO・会館
訪問調査日	平成26年2月28日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

御家族、御本人がどこよりも此処で暮らせて良かったと思って頂けるケアを目指し人生の先輩である事を念頭に置き、言葉遣いにも配慮し今、この時を何より大切にと考え、利用者、職員間で気持ちの良い挨拶を交わし、いつも笑顔で接して笑いの絶えない空間作りを心掛け、利用者様中心に関わりをもって出来ることは御自分でして頂き、出来ないことは一緒に行い、自立した生活をして頂きたいと考えています。また、今年度は「ミズ・メン・クソ」運動を目標に認知症の周辺症状の緩和に努め、より御本人様らしい生活の確立を進めていきたいと思っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

社会福祉法人・千寿福祉会の一員として誕生したグループホーム「百」は、この6月で十年目を迎える。2年前に2棟が開設。両ユニットは、若い男性職員の力の頼もしさや新鮮な雰囲気・多くの法人グループ事業所の協力や恩恵等を得ながら、互いに協力し各ユニットの特徴も活かしながら日々を送っている。両ユニット共職員の、個々の人間性を尊重し尊厳を大切にしようとする気遣いがしっかり伝わってきた。こういった理念があらゆる業務の底辺に流れている事が、例えばAさんのおしゃべりの中でも、又、利用者への深い思いが読めるような数々の記録を見てもよく理解出来る。ある生活スタイルを延々と続けているBさんの状態や顔もとが、2年前の訪問時より良くなっていると感じるのも、職員が気持ちをひとつにしてこの人らしい人生を大切にしているからだと確信している。

shita

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営理念を玄関に掲げ、ユニットの特性を活かし情報・意識の共有・統一を図り連携を強化し、出来る事はして頂きながら、いつも側に寄り添い、共感し、今、この時を大切に楽しく笑顔で自立した生活をして頂ける、ケアを心掛けている。	「今を大切に」の理念を職員間で共有しながら、職員個々での目標も決めている。開設2年目の2棟と以前からある1棟の管理者・職員は日頃から連携を図り、それぞれの特長を活かし利用者が楽しく生活できる環境作りにも努めている。	最も大切にしたい理念の一つとして「利用者の心の内を知り、思いに添った暮らしを」と聞いたがその為の情報共有とより良いケアを目指してフェイスシートの内容や活用方法に工夫を重ねてみると、相乗効果があると思う。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域と離れた場所に位置している為地域の方との交流は少ないが隣接する施設とのつきあいも交流と考えて、さやか祭りや、歌声コンサート等の催しに参加し、楽しんで頂ける様、支援し2ユニットの特性を活かし、ユニット間の交流も地域ととらえている	法人の関連施設での合同イベントの祭りやボランティアの演芸の鑑賞等へ家族と一緒に参加して楽しんでいる。職員の娘さんのピアノ演奏会、両ユニット合同のお茶会等を開いてお互いの交流を図っている。町内の文化祭への参加等、今後に向けて取り組む課題もある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方の運営推進協議会への参加や又、行事などへの地域の方の参加もあり、理解を得ていると考える。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ホームの活動状況を報告しケアにて困難事例の相談やアドバイスをケアに生かしている。町職員の参加もあり、年6回の開催を実施している	運営推進会議も2カ月に1回、年6回開催している。美咲町職員、家族等の参加があり、活動報告・情報交換やホーム内の問題点等を話し合い、有意義な意見交換をしている。	運営推進会議の委員の協力も得て確実に内容のある運営推進会議を実施しているので、参加者の広がり・会議の形の変化・まとめと評価等工夫してさらにレベルアップを期待している。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進協議会にも町職員の参加もありアドバイスを頂く等して関係を築いている	市町村主催の事例検討会に参加して行政や他のグループホームとの情報交換や意見交換をする等の交流がある。町の担当者と日頃から連絡を取り合い、些細な事でも相談しながら協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	外部講師を招いての身体拘束についての研修の実施や施設内研修等を行い、職員間での意識付けを行っている。	虐待防止・権利擁護研修への参加や認知症ケア研修を行い職員間で周知徹底を図っている。「制止しないケア」を目標にしており、それぞれの思いがあって行動している利用者への声かけに配慮する等、心身ともに拘束はしていない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	委員会実施時、伝達簿の利用をし情報の共有化をしている。外部講師を招いての研修を実施、機会がある際には、情報を職員間で共有して、虐待が見過ごされることがない様、自分達にあてはまらないか、振り返り注意・防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	過去利用者様(退所者)には成年後見制度の在籍者もあり職員は概ね理解している。又研修にも参加にて資料あり		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所手続きの際は、説明の時間を設けている。改定時等は説明し同意を得る等、理解を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進協議会への家族の参加もあり、ご意見箱の設置や年度末には、家族交流会を実施し、利用者様の日常を見て頂く。ケアプラン更新時にも要望を伺い、運営に反映させている。	昨年度末に行った家族交流会には遠方の人以外、ほとんどの家族が参加し、意見交換や相互交流を深めることができた。今年度は2棟の開設2周年の記念行事と合わせて家族会を行う予定にしている。家族の朝食時間が早いという意見で時間変更をした等、運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議、ケア会議、伝達簿など出来るだけ、職員が意見を言える機会、ツールを設けている。また、リフト設置も完了し、すべての利用者の方が浴槽への入浴が可能となり、職員の負担軽減にもつながった。	毎月の職員会議でケアカンファレンスや行事計画等を話し合い情報共有や意見交換をしている。利用者の重度化に向けてのケア方針を話し合い、職員の提案で運営に反映させた例もある等、職員の意見を反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	面会者や御家族により実績に対し労いの言葉を頂いた事を職員に伝えたり、管理者は研修で学んだ「誉める」を実践。職員の労を労らい就業意欲を高めてもらえる様、努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内外での研修を受ける機会を設け、日々の業務では、お互いに注意しあえる環境作りを念頭に働きながらケアの質の向上を目指している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	施設内外の研修、近隣施設と交流時などを利用しサービスの向上に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面談で利用するに当たり、生活歴、ご要望を伺い御本人・歩家族の意向に添えるようなケアプラン作成に努め、サービスを提供するよう努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前には御家族の思いを伺いケアプランを作成し更新時、状況変化時その都度御家族に報告し連携を図る		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	御家族の要望を伺いながら状況に応じて代替えケアの可能性に付いても話し合いケアの向上に努めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	今この一時を大切に出来る事はして頂きながら、職員と共に役割をもって、笑顔の絶えない楽しい自立した生活が出来る様、支援させて頂く。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者の状況の変化等その都度御家族と連絡をとり、受診等の連携を取っている。又ご要望に添える様に努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	職員とは個人担当性をし採用。御家族、利用者様との信頼関係の構築をし、安心して生活して頂ける様、心掛けている。	近くの歯科医院で昔馴染みの人と会い、後日その人がホームに面会に来てくれたり、毎年ホームに来てハーモニカを吹いてくれる家族が外国人の友人を連れてくる等いろいろな人達の訪問もあり、職員は出来る限りの関係継続の支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者を理解し気の合う人同志の席を近づけたり困難な方には職員が関係を築ける様配慮している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後御家族と交流とまではいかないが、利用当時に付いての思い出話等の会話あり		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の意向に添える様、御家族、面会者等からの情報収集や職員間の情報の共有、関係性の強化に努め、より深いアセスメントが出来る様、心掛けている。	散歩が日課のAさんは自分で敷地内を2周と決めて一人散歩に出る。「一日3回は外に出ないと・・・」と言いながら職員に告げて出かける。玄関を出る時「門の外は車が通るから出ないんよ」と私に教えてくれた。職員は目配り、気配りしながらそっと見守っていた。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前の面談や御家族へ経歴を尋ねたり利用者様との会話の中で把握に努めたりしている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	定時のバイタルチェックの実施、入浴時の全身観察を通して、身体状況把握に努め、体調管理を行い、変化時の早期発見につながる様、心掛けている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	御本人、御家族様の希望を伺いながら生活の質の向上につながるプラン作成を心掛け、特に御家族には職員に遠慮され「特にありません」と言われる事も多い為、プランを送る際、御家族の欄を白紙にして、御家族様の言葉で記入して頂ける様、試みている。	状況の変化のある人は随時、そうでない人は基本6か月に1回プランを見直している。本人・家族の意向や希望を直接記入してもらう為に、プランは必ず家族に手紙を添えて依頼している。中には手紙にも書いてくれる家族もいる。「ケース記録」は管理者が要約して記入したものも作り、職員間で情報共有している。	ケアプラン作成やモニタリングの基ともなる「ケース記録」は、このホームの特長の一つと言える程素晴らしいものになっているので、家族にも送り、理解を深めてもらう等活用の幅を広げて欲しい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々の日々の様子、状態の変化等の記録などにより情報の共有を図り見直しにつなげている。また、重要、緊急性のある情報は伝達簿への記入を行いより早く、職員間での共有が出来るよう努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者様、御家族と連携を図り柔軟な対応を心掛け、出来る限りのご要望に添える様取り組んでいる		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進協議会にて地域との交流に付いての検討をしたり避難訓練等の実施により安全な暮らしや訪問理美容等のサービスの利用をしている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関、御家族と連携を取りながらかかりつけ医との連携を築き、医療を受けられるよう支援する。又、受診結果の情報は受診ノートに記録し、緊急性のあること、薬の変更などは、伝達簿にも記入し、情報の共有が早く出来る様、心掛けている。	かかりつけ医は毎週1回往診に来てくれるが、同敷地内の障害者施設の往診日にも気軽に立ち寄ってくれ、毎日顔を見せてくれる事もあると言う。今日も職員が気軽に相談している様子が窺われた。夜間や緊急時の対応にも迅速な協力が得られるので利用者、職員も心強い。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常に利用者様の健康管理や状態の変化に応じられる支援を実施し協力医療機関による受診、1/Wの嘱託医による往診の他、週3~4回は様子を伺いに来所あり、また1/Wの訪問看護体制等を整えている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	主治医との連携を図り、病院も相談に応じて下さり早期の入退院も考慮して頂ける関係づくりはある		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	医療行為が必要でない場合は出来る限りここで暮らして頂ける様に重度化、看取りに対するマニュアルがあり、入所前の説明時や契約時に御家族には説明をしている	1・2棟合わせて今のところ看取りの事例はない。ターミナルケアマニュアルを作り、職員間で共有しながら意識の統一を図っている。今後も利用者・家族の希望があり、医療的行為が発生しなければ医療機関と連携をとりながら看取りをしていく方針にしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時、事故発生時に備えての勉強会(救急蘇生法)の実施やマニュアルあり		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	緊急連絡網の作成や敷地内3施設合同訓練、隣接する施設との協力体制、消防団を交えての会議(協力体制、ライフライン断切時等)夜間職員1人体制の為、緊急時は勝手口から応援に来れる様、鍵を預ける相互連携、協力体制が出来ている。	地域住民・消防団・法人関連施設合同で防災会議を開催し話し合っている。1ユニットの夜勤者は1名体制だが敷地内には常時3名夜勤者が滞在しているので、緊急時の協力体制も出来ている。各居室の前には「赤と青」のカードが掛けてあり、消防署の指導による避難確認カードだと聞いた。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	その人らしさを尊重し、尊厳を守り、誇りやプライバシーを傷つけることのない言葉かけを心掛け、今この時を大切に楽しんで頂ける様支援している。	「私は90才までずっと勉強していたから分かりませう！」負けず嫌いなCさんは「勉強しよう〜っと！」と新聞をよく読み、諺もよく知っており大きな声で答える。その人のプライドやプライバシーを大切にしながら、職員は声掛けや態度等に配慮しながら接している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	楽しみや生き甲斐となるような役割を持って頂きその日の気分や体調に合わせ対応を実施		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務優先でなく、お一人お一人がその人らしく日々を暮らして頂ける様、個別支援を大切にコミュニケーションや声掛け、レクリエーションなど多く関わりを持って笑顔あふれる日々を暮らして頂ける様、心掛けています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	更衣時等衣類の選択や理美容院の利用時の希望等を伺いおしゃれ、衛生面の注意を図る		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員は家庭でしている様に冷蔵庫の中のものでメニューを考え、利用者の方にも、食時前のテーブル拭き等の役割を持って頂き、1棟・2棟合同の食事会、外での食時や、旬の物の取り入れや、好みの物、希望物の購入や行事等に応じたメニューの提供を心掛けている	以前は男性職員が作ると「もったいなくて食べれない」という人もいたが、今日の当番の男性職員の作った昼食を皆で美味しくいただいた。食間によく出すという「するめ(あたりめ)」は利用者の間でもとても好評であり、徘徊防止の効果もあるそうだ。節分には柔らかく工夫した恵方巻きまるかじりを皆で楽しんだ。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	「ミズ・メシ・クソ」を念頭に1日1500カロリー、1500CCを目標として、1日の摂取量をチェック表に記録し把握する。毎月の体重測定を参考に体調に応じ提供している。特に水分は不足しがちな為、季節に応じた温度の物、種類などにも配慮し、飲んで頂く様心掛けている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケア・就寝時の義歯消毒を実施し能力に応じたケアや歯科医による口腔ケアの実施		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表により状態把握し個々にあった方法を考慮し対応し、下剤服用時や夜間のみ紙パンツ使用するなど御本人様の自尊心を大切に車椅子利用の方も、パットは使用しているが、トイレでの排泄を目指し、気持ちの良い暮らしができるよう支援している。	自力排便の促進効果の目的で毎朝牛乳1本摂取してもらっているが、その人の状態に合わせ、調整している人もいる。栄養価の高い鉄分Ca強化の牛乳を飲むようになってから以前便秘だった人も便通がよくなり改善した例もある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取困難者にはケアプランへの取り入れや個別対応を実施し個々に合わせた提供をして取り組んでいる		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	H24.11.1より業務変更となり毎日の入浴、夜間入浴は実施していないが、週3回入浴、入浴をされない方の全更衣・下清拭を実施し、リフト設置により、車椅子等の利用者様も、浴槽へ入浴可能となった。	重度化に向けて、1棟に天井リフトを設置した。2棟には開設当初から設置してある。シャワー浴、足浴だった人も湯舟にゆっくり入り気持ちよさそうな表情で喜んでもらっている。現段階では入浴嫌いの人はいないと聞いた。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調不良時等その時々に合わせて臥床したり、夜間眠れない利用者様には日中しっかり起きて頂く様声掛けし良眠につながる支援をしている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬については個々のファイルを作成し、受診時や緊急時に使用し、変化時はその都度伝達簿を利用し申し送りにて理解している又与薬ミスの無い様重複チェックの仕組みを実施		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	朝は、数人でおしゃべりしながら、洗濯物を畳んで頂いたり、それぞれの方の生き甲斐楽しみとなるような役割を持って頂いたり好きなテレビ番組を見たり、レクで歌やことわざカルタや、季節に応じた、折り紙を折って、掲示板をに飾るなどして頂き気分転換を図る		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	重度化により、外出は困難な方も多いため、1棟2棟合同で外にテントを設置し、外での食事を楽しんで頂いたり、2棟の方では11月に紅葉がりに、御家族・職員と出掛けるなど支援している。又、今年度は1棟の庭を整備し、気候の良い時は、外で過ごすなど、外での活動も広げていきたい。	親戚の人と墓参りに出かける人や正月を家族と一緒に過ごす人もいる。合同で行なう新茶の会や青空食事会の焼き肉は利用者にとっても好評だった。紅葉の季節には家族も一緒に大勢で蒜山へドライブへ行く等、外に出る機会を増やす努力をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	認知症の為、所持は困難だが個別対応にて購入希望により食材買い出し時に購入し、預かっている所持金よりの支払いもある		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	現在利用者様手紙を書く事はあまり無いが御家族の面会はよくあり遠方の御家族とは電話にて連絡をしている又会話困難者には職員が状況報告をしている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	トイレ、入浴等、カーテン等で仕切りプライバシーにおいて十分な配慮を行う。又、季節ごとに行事(クリスマス会)等に参加したり、フロアに季節感(飾り・絵)を採りいれている。温度計に注意しながら、温度の管理をする。	1棟の男性職員のマンパワーがすごい。ホーム横の花壇を整備してレンガを敷き詰め、オープンテラスを造っている途中であった。気候の良い時には屋外で茶菓を楽しめる場所ができる。2棟の利用者とは日頃から訪問し合う等行き来があり、両ユニット揃って楽しめる日が待ち遠しい。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共に生活し相性の悪い方達がトラブルにならないよう席の配慮や予防に努めている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	曾孫様の写真や予定を書き込むカレンダーの掲示をしたり、レク等で作成した作品を展示するなどしているご自分のタンスの持ち込み等あり	1棟・2棟の居室の作りは少し違うがそれぞれの良い点等、特徴があり全般的に住み心地良い。元気な人は日中は殆んどリビングで過ごす人が多く、自室は寝る時に帰る場所となっている。重度化して居室対応が多い人にとっても、馴染みの品々に囲まれた寛げる場所であり、家族の思いや工夫が随所に見られる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	1日中居室対応者の方は、細めな職員の訪室やホールで過ごす事が多い利用者様の方も職員とのコミュニケーションを第1にいつでも側にいるという安全・安心して頂ける環境づくりを心掛けている。		